

# 人生これから

④

## 高校教師から養蜂業へ

### 宮崎 忠司さん (徳島市)

レンゲ畑を飛び交う

無数の蜜蜂。花の蜜をたっぷり吸い込み、次々に巣箱に戻っていく。宅地化が進む徳島市田宮地区で、蜜蜂飼育をしているのは、元高校教師の宮崎忠司さん(67)＝徳島市北田宮4。中学教師を退職した妻の千代子さん(64)とともに、おいしい蜂蜜づくりに精を出す。「人を育てるのも、蜂を育てるのも、鋭い観察眼や迅速・適切な対応が大切」と心掛けている。

40年近くを教育者として歩んできた人生。実家は代々続く農家なので、退職後に農業に携わるつもりだったものの、養蜂は全くの未経験だった。

養蜂を始めたきっかけは、徳島商業高校の校長で定年退職を間近に控えた2010年3月、蜜蜂が激減しているのをニュース番組で

# 蜜蜂激減知り挑戦決意 日本一目指し家族で奮闘

知ったことだった。

「難しい仕事だからこそビジネスチャンスがある」と、挑戦することに決めた。

退職後の「本業」にするつもりだった稲作はレンゲソウの裏作との位置付け。その他、カボチャやズッキーニ、キウイなど蜜源になる野菜や果物を中心に30品目を育てている。養蜂に役立ち、販売収入につながる作物を栽培することで効率的な農園経営を目指す。が、「経費がかさんでまだ黒字には程遠い。だが、養蜂とは何か

ようやく見えてきた」と表情は明るい。

評だ。蜂蜜は子どもたちに

採れた蜂蜜は徳島市の欧風産直市「とくし まマルシェ」などで販売。対面販売なので客の声を直接聞くことができ、品質向上につながる。反響は上々で、毎月買入から歓声上がる。受け入れを負担に感じることもあった。「おいしいと頭張ろうと思う」

蜂蜜の魅力や蜜蜂の生態を知ってもらったため、毎年、4〜12歳の子どもを対象にした体験教室も開いている。10月にレンゲの種をまき、5月に蜂蜜に加工するまでの計5回。レンゲや蜜蜂の観察、蜜絞りとくしまマルシェでの販売といった盛りだくさんの内容で好評だ。

(山口和也)

＝おわり



高校教師を定年退職後、日本一の養蜂家を目指して奮闘する宮崎さん＝徳島市北田宮4